



“ 慈善・社会事業家 ” 渋沢栄一

～ 東京養育院に注いだ情熱～

2009年3月14日(土) 午後2:00～4:00



(渋沢史料館所蔵)

日本近代経済の父とも呼ばれ、明治～大正期に多くの企業の設立に携わった渋沢栄一。実業家として知られる一方で、福祉や教育などの慈善・社会事業にも尽力しました。実業による私利は公益に資するべきであるとの一貫した主張があります。

中でも、実業界を退いた後その逝去に至るまで院長を務めるなど60年にわたり力を注いだ「東京養育院」は、身寄りのない子ども、老人、路上生活者や障害をもつ人などを救済する日本で最初の公立救貧施設でした。

明治維新の影で、社会体制崩壊や災害により多くの人々が貧困と飢餓に瀕した19世紀末。なぜ、渋沢栄一が社会事業、東京養育院に情熱を注いだのかを考えることは、今日、わたしたちが「公」および公的社会福祉について考える意義をもっています。

講師には、“ 渋沢栄一の社会事業 ” 研究の第一人者である山名敦子氏をお迎えします。

講師：山名 敦子さん < 認知症高齢者向けグループホーム(福)麦の家ホーム長・理事、元・立正大学社会福祉学部教授 >

進行：安藤 雄太(東京ボランティア・市民活動センター副所長)

参加費：2,000円 定員：40名(申込先着順)

対象：NPO、市民活動、ボランティア活動等に携わる方や、関心のある方なら、どなたでもご参加になれます。

主催・申込・会場：東京ボランティア・市民活動センター(担当：青柳・近江)

TEL03-3235-1171 FAX03-3235-0050 <http://www.tvac.or.jp>

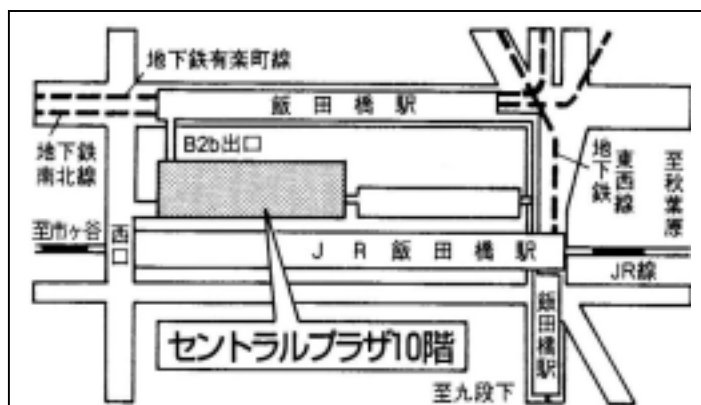
東京ボランティア・市民活動センター

(新宿区神楽河岸1-1)

飯田橋セントラルプラザ10階)

飯田橋駅徒歩3分 ・JR 総武線(西口)
・地下鉄(B2b出口)
有楽町線・南北線・
東西線・大江戸線

大江戸線は出口まで10分程かかります。



渋沢栄一氏 略歴

1840(天保11)年、現在の埼玉県深谷市に大農家の長男として生まれる。徳川慶喜の幕臣としてパリ万博を視察し、西欧諸国の経済制度や近代的技術を見学。

大蔵官僚として、租税事務の処理、新貨条例・造幣規則、国立銀行条例の立案などに携わり、退官後は第一国立銀行(現みずほ銀行)総監役のちに頭取に就任。以後、実業家として地方銀行、東京ガス、東京海上火災保険、王子製紙、日本郵船、帝国ホテル、東京証券取引所、サッポロビールなど、500余の企業の設立・経営に関わる。論語の精神を重んじ、利益の独占ではなく社会への還元を説いた。

実際に、教育、福祉、国際交流などの社会事業にも熱心で、日本赤十字社、らい予防協会、商法講習所(現一橋大学)、日本女子大学校(現日本女子大学)、日米協会、日仏会館などの設立や、関東大震災後の復興など600もの社会事業に携わった。

東京養育院は、東京会議所会頭であった1876(明治9)年より事務長を務め(のちに院長)、他の役職を退いた後もその生涯を閉じるまでおよそ60年にわたり運営に関わった。「貧困者を税金で養うべきではない」との議論に、渋沢栄一は、「政治は(論語にいう)仁に基いて行なうのは当然」と、公的支援の必要性を訴えた。

1931(昭和6)年、91歳で生涯を終える。

山名敦子氏 略歴

(財)東京カリタスの家ボランティアビューロー ソーシャルワーカー、上智大学社会福祉学科ソーシャルワーク実習助手などを経て、1996年4月より立正大学社会福祉学部教員。

1994(平成6)年より、長野県上伊那郡中川村において社会福祉実践活動をはじめ。

98年3月、4人のボランティアとともに、チャリティーとしての認知症高齢者向けグループホーム麦の家を開設。99年5月、社会福祉法人としては日本ではじめての「単独型」グループホームの認可を得る。2000年4月、介護保険制度における事業所となる。06年3月、立正大学を退職して麦の家ホーム長となる。07年1月、東京から中川村へ移住。

< 渋沢栄一研究に関連して >

1990(平成2)年10月 渋沢研究会メンバーとなる

2004年 渋沢国際儒教研究セミナー(東京)にて「渋沢栄一における社会事業思想の展開 東京養育院」の報告

2005年 同セミナー(上海)にて「渋沢栄一の慈善事業 東京府養育院処分問題をめぐって」の報告

<論文> 「明治期の東京養育院 『公設』の原型をめぐる」(渋沢研究会編『渋沢研究』4号、1991)、「慈善・社会事業と実業の接点」(渋沢研究会編『公益の追求者・渋沢栄一 - 新時代の創造』山川出版社1999)、「渋沢栄一にみる公益という名の慈善 東京養育院に関わる」(『東アジアにおける公益思想の変容 近世から近代へ』日本経済評論社2009年3月発行予定)

< “慈善・社会事業家” 渋沢栄一 参加申込書 > (担当: 青柳・近江)

FAX 送付先: 03 - 3235 - 0050 ホームページ <http://www.tvac.or.jp>

団体・ご所属名: _____ (団体内での役割: _____) 主催者より返信します。

参加者氏名(フリガナ): _____

ご連絡先:(選択 自宅・所属先)〒 _____ ご住所: _____

TEL: _____ FAX: _____ E-mail: _____

ご記入いただいた個人情報主催者が適切に管理し、市民活動に関する研修等事業のご案内に利用させていただきます。個人情報の取扱いに関する方針はホームページ(<http://www.tvac.or.jp/>)をご覧ください。